

第16回水俣市総合教育会議 会議録（概要）

日時：令和7年11月25日（火） 午前10時00分～午前11時30分

場所：水俣市役所3階 市長会議室

【水俣市総合教育会議出席者】

市長	高岡 利治
教育長	蓑田 誠一
教育委員	平尾 雅述
教育委員	山田 誠次
教育委員	本田 恵津子
教育委員	森下 知恵子

【市長部局：事務局及び関係出席者】

総務課長	赤司 和弘
スポーツ推進課長	丸山 健一
総務課 行政管理室	鬼塚 芳浩
総務課 行政管理室	宮本 晃輔
スポーツ推進課	山下 良紀

【教育委員会：事務局出席者】

教育課長	設楽 聰
教育課 学校教育室	大川 尊
教育課 生涯学習室	山内 一也
教育課 指導主事	草野 裕美子
教育課 学校教育室	田上 朋史
教育課 学校教育室	中村 誠孝
教育課 生涯学習室	正岡 祐子

【傍聴者】 1名

1 開会 （司会進行：総務課 行政管理室 宮本）

2 議事

（1）協議事項

水俣市教育大綱を踏まえた今後の方向性について

（2）その他

高岡市長 本日は、第16回総合教育会議にお集まりいただき、誠にありがとうございます。また、日頃から教育委員の皆様には教育行政の推進に御尽力賜りまして、改めて感謝申し上げます。

短い時間ではありますが、実りある協議の場にしたいと思いますので、どうぞよろしくお願ひします。

宮本 それでは、本会議は市長が招集し、教育委員会と協議・調整する場でありますので、市長に議長をお願いしたいと思います。市長よろしくお願ひします。

高岡市長 早速ですが、今回のテーマは「水俣市教育大綱を踏まえた今後の方向性について」となっています。

平成27年度に水俣市教育大綱を策定し、4年ごとに見直しをしており、前回は令和3年度に見直しを行いました。

現在の教育大綱が今年度までとなっておりますので、本年度中に次期計画に盛り込むべきこと、不足している視点がないか、などの議論を深めておく必要があると考え、今回のテーマとしました。

教育大綱に基づいたこれまでの取組について、確認していただき「今後の方向性や方針」について議論していただければと思います。それでは事務局から説明をお願いします。

宮本 本市では、教育大綱を基本理念とした水俣市教育振興基本計画を策定しております。水俣市教育振興基本計画における取組について、教育課、スポーツ推進課、それぞれから説明します。それでは教育課から順に説明をお願いします。

《 教育課説明 》

《 スポーツ推進課 》

高岡市長 ただいまの事務局からの説明に対し、御質問、御意見はございませんか。

平尾委員 これまでに学校訪問として各校を訪問の上、状況を確認してきました。全国学力調査や県学力調査の結果を見ると、学力の育成に関しては厳しい部分があると思います。これは先生方だけの課題ではなく、地域や保護者との連携状況にもよるものだと思います。基礎学力を定着させるための補充的な指導がありますが、保護者としては塾で学をつけようとしている傾向があるようです。今は一部の学校での取組ですが、短い時間でもいいので、全学校で補充、そして発展的な学力向上の取組が展開できればと思っています。

そして、それには、地域とともにある学校づくりも関係していると思います。学力調査の際にはこどもたちへの質問項目もありますが、今は、学ぶこと、それを活かすこと、そして

将来設計の部分が乖離している気がします。そのような中、第一小学校では、一小まつりとして地元企業等の協力のもと、職業体験の事業が行われましたが、非常に素晴らしい取組だと思います。中学生になるとキャリア教育がありますが、市が実施する水俣未来ラボもあります。持続可能な未来を切り開く人材を育成するため、少ない予算で教育効果を高めていくためには、地域の協力が不可欠になると思います。学校運営協議会がそれぞれの学校に設置されていますので、それらの活用も必要だと思います。

それと、放課後補充教室は希望者、あるいは先生が残るようにと指導する場合もあると思いますが、塾に行かなくても放課後補充教室で十分に学べる状態になればと思うところです。

高岡市長 この件に関しては、御意見として承る形でよろしいですか。それとも何らかの回答は必要ですか。

平尾委員 今後の計画の中で、御検討いただければと思います。

それと、第一中学校のふるさとCM作りは素晴らしい事業だと思いました。総合的な学習の中でふるさとを見つめなおし、地域の良さに気づくことにもなると思います。ICT教育のプロセスの中での、こどもたちの意欲の育成にもつながりますが、やって終わりではなく、これをどうやって次の世代に引き継いでいくのか、その見通しが欲しいです。やって終わりではもったいないと思います。

高岡市長 この件に関し、何か教育課から答えられることはありますか。

中村 この事業は、第一中学校2年生の2クラス、70名の生徒が4～5人の班を編成し、全部で16班に分かれて行いました。完成後の作品は第一中学校の文化祭の中で発表しましたが、12月には、KAB地上波のライブタッチという夕方の情報番組の中で、随時、放送される予定です。

今回の事業実施に当たっては、KABの方々から非常に熱心に御指導いただき、こどもたちも一生懸命取り組んでくれました。このノウハウを、今後、新入生のPR動画作成、学校案内の動画作成などへとつなげていき、1年生や3年生、そして教職員の先生方へも共有できればと思います。

平尾委員 今まで総合的な学習の時間で、水俣を知る取組はありましたがあ、ある程度固定的な取組であったと思います。今回は、ICT機器を活用してPR動画を作成しようという取組で、素晴らしいことだと思いますので、そこには教育的な中身を反映することが必要だと考えています。限られた時間の中で作り上げることになりますので、予算もかかると思いますが、こどもたちや先生方みんなで発展的な意見を出し合って、次につなげていってほしいと思います。

高岡市長 CM作成後、学校の中でお披露目は行われましたか。

中村 11月上旬に開催された第一中学校文化祭の中で、現時点で完成している作品を発表しております。

高岡市長 完成版は12月にテレビ放送されることですが。

中村 それと併せて、市のホームページや公式ユーチューブ等でも発信する予定です。

高岡市長 平尾委員からは、作成後の発展的な取組について御意見がありましたが、地域とのつながりは大事だし、校区内のPTAや学校応援団の方々に対する発表の場を設ける必要はありませんか。よくある話ですが、作る時は一生懸命、しかし、出来上がれば満足してしまい、作った後に十分に活用されていないということがあります。この事業に携わったこどもたちはその過程も含めて大きな学びがあったと思いますが、それ以外のこどもたちは、出来上がったものにしか触れることができず、その過程における学びを得ることができません。それ以外のこどもたちにどうやって伝えてあげるか、そして地域へと共有していくことも必要です。そういうことが地元愛につながるのではないかと思う。その辺を教育課で明確にしてほしいと思います。

山田委員 教育は大事であり、細かなことの積み重ねで水俣全体の意識も変わるとだと思います、そこを目指していくのがこの総合教育会議だと思っています。市民全体で水俣市の意識を変えていくことになればと思います。

学校活動においては、先生もこどもも代わっていきます。行政も担当者が代わっていきますが、その場限りではなく、中身を引き継いでいかなければなりません。

学力に関しては、課題はありますが、まずは学校が安心できる場であってほしいです。価値観が多様化する世の中ですが、勉強を頑張ることもと頑張らないこともと両極端になってしまいがちで、どちらに対するケアも大変になってきます。学力的に厳しいこどもへのケアも必要でしょうし、学校の勉強では物足りないというこどもへのケアも必要になります。

価値観が多様化する中、学校とはそもそも何なのかと聞かれたときに、全ての先生が同じ受け答えができるような状態になればと思いますが、学校内においても若い先生と年配の先生とで両極端になっているかもしれません。学校の勉強は何のためにやるのかと聞かれた時に、明確な答えが先生方から返ってくるのだろうかと心配になることがあります。

学校活動には、多くの目標、目的があると思いますが、ある程度共通の目標を持って取り組んでいかないと、みんなバラバラになってしまいます。山登りに例えれば、登り方はそれぞれでもいいから、同じ山を登るということかなとも思いますし、最終的な目標は、みんなで共通のものがあつてほしいです。それぞれの価値観に基づいて生きていくことになれば、

とりとめがなくなり、みんなバラバラになるのではないかと危惧しています。

すぐに答えは出なくても、次の4年間でそういう意識が身について欲しいし、コミュニティ・スクールにおける協働活動の在り方もそうだと思います。地域の皆様方が自分たちの地域の学校をどうするのか考えるべきで、何をするにも難しい世の中ですが、こどもたちも含めてみんなで取り組めば、それらが打開策になると思います。

それと、文化財の保存活用は難しさもありますが、前に向けて取組を進めていただきたいです。部活動の地域展開に関しても、定例教育委員会も含めて説明を受けましたが、今の水俣市の流れがいいと感じていますので、期待しているところです。

学力に関する取組、そして地域との協働活動に関しては、これからさらなるテコ入れを期待します。

森下委員 本市が掲げる誰一人取り残さない学びの保障について、学力に関しては、つまずきのあるこどもを時間外に指導するということだと思いますが、つまずきに関しては学習面以外にも、学校に適応できないという、学校生活でのつまずきもあると思います。不登校が増えていますが、そこの改善、適応の受け皿について、これから考える必要があると思います。

それと、文化財の保存について、水俣市はコンパクトでごくいい町ですが、町の外を知らない人も多いのかなと感じることもありました。そのような中、水俣高校のこどもたちとアメリカのスタンフォード大学との連携事業があり、志を高めることができたと思います。また、熊本大学や熊本県立大学との包括協定もあると思いますが、それらを受け入れる形での水俣市での交流事業も、これまで以上に積極的にやってもいいのかなと思いました。

徳富蘇峰・蘆花に関することについても、文学部がある大学との交流によりPRしてもらうとか、そういう連携を進めてもいいのかなと思います。

平尾委員 文化財に関して、先日の学校訪問で第一小学校の図書室に、水俣市の石橋に関する展示がありました。薩摩街道もありますが、地域めぐりは大切なことだと思います。ソフト面とハード面の取組がありますが、例えば蘇峰蘆花生家の利活用も工夫して欲しいと思います。田浦の赤松館に関しては、音楽のイベントを開催するなどして集客に取り組んでいますし、今までのやり方では人は来てくれませんので、新たな取組に期待します。

本田委員 学力に関して、令和3年度より令和6年度の方が低下したようですが、本日の説明では、現在の取組を継続していくとのことでした。こどもの数が減っていく中で、学力はどうなっていくのでしょうか。誰一人取り残さない学びの保障という言葉の責任は大きいと思いますので、いろいろ工夫して欲しいです。そして、学力の結果を表す際は、不登校になっているこどもたちの成績も反映されますので、どのように対応していくのかが重要です。小学校に関しては、通って楽しい場所であればとも思います。勉強、給食、そして大人の先生方との交流があり、行きたいと思える学校を目指していただきたいです。そして中学校に関

しては、将来を見据えることのできる環境であって欲しいし、企業との連携も必要かと思います。

文化財の保存と地域とともにある学校づくりも学力向上に関係あると思っていますので、学校に来ることができないこどもたちは、家庭環境が複雑であったり、先生方も介入できなかつたりということがあると思いますが、そういう状況は地域の方々が把握している場合もありますので、地域とのつながりをより密接にすべきと思いますし、そのための手段として地域学校協働活動は大事なことだと思います。

徳富蘇峰・蘆花関係にしても、ゆかりのある場所を地域の方が案内するとか、水俣の文化財にはこういうものがあり、実際に体験もできますとか、そういうことを取り入れていけば、部活動の地域展開も含めて全てがつながると思います。

学校は勉強する場所ですが、様々なことを体験することで得るものがありますし、そのためにも、まずは学校に来ることが大事です。

部活動の地域展開については、国の動向が定まらない中で大変ですが、水俣市こどもたちのために、水俣市に合ったやり方で進んでいると思いますので、今後、予算面の確保、地域との連携により前に進めて欲しいと思います。

山田委員 教師の資質向上、そして授業力向上という記載がありますが、資質向上ということであれば、人としての幅や深みを向上させたりすることもできればいいと思います。

高岡市長 部活動の地域移行に関しては、他の自治体が休日のみの移行を検討する中、水俣市は平日と休日とで指導者が異なることによる混乱を避けるため、当初から平日も含めた地域移行を検討してきました。

この間、国の制度が次々と変わり、次期改革期間が示されるなど、定まらない部分もありますが、それでも、これまでしっかりと検討してきたことにより、水俣市として対応できる状況にあると考えております。

それと御報告ですが、今回、全国の1700以上ある自治体の中で、30程度の自治体の長が発起人となって、学校部活動を含めたこどもたちのスポーツ・文化活動を支援する会が設立され、水俣市も加入了しました。部活動の地域移行に当たっては、指導者の確保、送迎、保険など様々な課題がありますので、それらをきちんと国が責任をもってやってもらうということを要望する会になります。

先日、東京で自民党の鈴木幹事長にお会いし、公明党の方もいらっしゃいましたが、7,8人の国会議員連盟の方々に対して、自治体の長で集まって国への提言として要望を行ってまいりました。地域移行に関しては、今後も、何らかの意見を上げていきたいと思いますので、みなさまへも報告させていただきました。

それでは、それらも踏まえまして、教育大綱に関する次期計画の策定に関する提言を伺いたいと思います。先ほどの説明も含めてということで構いませんので、こういうことは引き

続き行うべきだとか、御意見をお願いします。

山田委員 誰一人取り残されないという言葉がありますが、学力面以外でも支援するという視点は大事だと思います。学力に関しては、そもそもどの部分がつまずいているのか、という分析が必要です。それは単にどの分野の点数が低いとかそういう分析ではなく、そもそも、問題文の中に隠れた、この部分につまずきの原因があるのではないか、ということです。

例えば、鳩という言葉が問題の中に出てきたときに、そもそも鳩が何なのかを分かっていないということがありました。これは、鳩について何か答える問題ではなく、小学1年生の問題で、マスが一つ開いていて、この中に何を入れますかという問題で、鳩を選ぶものでしたが、鳩自身を知らないからさっぱり分からなかったということでした。つまり、生活体験の部分での体験の少なさが理解の妨げになっていました。すぐには点数に結び付かないけど、これを改善していくには、言葉のやり取りも含めて生活体験を充実させていくことが大事だと思います。

森下委員 グローバル人材を育成するために、外国語教育を充実させるとありますが、中学校訪問の際に感じたこととして、英語の成績が軒並み低下傾向にあるようでした。それに対して何か取組を行う予定があるのか、お尋ねします。

高岡市長 この件に関し、何か担当から説明はありますか。

草野 外国語教育に関しては、ALT以外にも、市として外国語活動支援員を1名配置して、小学校を中心に活動してもらっています。

蓑田教育長 今年度は、第二小学校がオンラインで台湾との交流を行いましたが、次年度は、台湾から訪問団が来られる予定となっております。小学校でも英語教育は始まっておりるので、まずは英語による会話がスタートになり中学校につながります。教職員の資質向上も大事ですし、学力だけではなく、水俣市をどうにかしなければいけない、水俣市の人を育てなければならないという、先生方の心にも火をつけることが大事だと思いますので、教育委員会としても働きかけていきたいと思います。

水俣高校も、スタンフォード大学との連携事業を行っており、今はそれぞれが点になっていても、それをいすれ線にしてつなげていくことが大事です。

それと、先日、水俣市表彰式があり、水俣高校のカヌー部の生徒が出席しましたが、一人一人が自信をもって頑張っていました。

高岡市長 先ほどの森下委員からの御質問は、中学校の英語力が低いのではないかということだったと思います。それに対し教育課として、今後、次年度に向けて何か対応策があるのか

ということです。資料の説明では、今の取組を継続してとのことでしたが、それは何をする予定ですか。学力調査に関しても、全14項目の中で令和4年度と5年度は5教科で県の平均を上回りましたが、令和6年度は2教科にとどまりました。継続が不可欠とのことです、では、いったい何を継続するのか、極端な言い方をすれば、継続というのは発展がないということです。むしろ、今の状態を継続するのなら、学力は落ちていくということです。次期計画の策定に当たり、この件に関しては委員の皆さんにも御意見をいただきたいところですが、教育課として今の時点できか答えられることがあればお願ひします。

草野 学力向上に向けては、まずは、こどもたちが安心して過ごせる学校づくりを考えており、それを全ての小中学校に向けて投げかけています。次年度は、こどもたちが学校に通ってくれるための基盤づくりが必要であると思われます。

平尾委員 グローバル人材に関しては、テストの結果ではなく、話せるということが何よりも大切だと思います。環境センターにも多数の外国人が来られ、我々も何とか身振り手振りで対応しています。英語に関しては、学力の向上も期待されていますが、やはり話せるということが一番必要だと思います。

今は働き方改革で、なんでも削っていく方向にありますが、中学校3年生まで英語を勉強しても英語を話せない状況で、どうすれば話せるようになるのか、それを示すことができればと思います。

高岡市長 水俣高校がオンラインでスタンフォード大学と事業を行っておりますが、1期生の話を聞くと、「オールイングリッシュ」がきつかったということでした。でも、何とか先生方が押し上げてクリアすることができたようです。普段の生活の中で英語を話すことがないわけですから、小中学生の時から日常的に英語に接する機会を増やしていくことが大事になってくると思います。そして、水俣高校に進学して、スタンフォード大学との事業に取り組んでみようということにつながればと思います。そのような小中高の連携を我々が考えていく必要があると思います。

平尾委員 高校進学時は、ネームバリューも大事かもしれません、私も相談を受ける中で、時間と労力をかけて遠く離れた学校に行くよりも、水俣高校へ進学したら、こんなにいいことがあるよということがあるのかなと思っています。幼保小中連携は、うまくいっていますが、中高の連携も進め、まずは、地域で育てるという考え方を持つことが必要です。

高岡市長 一小まつりに関しては、地元企業の協力のもと、職業体験ができました。水俣高校においても、仕事発見塾をやっていますが、これは、高校2年生の頃ではなく、もっと早い段階で地元の企業にはこういう特色があり、こういう技術を持っているということを教える

べきです。保護者に関しても、地元企業のことを知らない場合が多いです。平尾委員が話されたように、水俣高校の特色とは何なのか、そこを明確に説明する必要があります。グローバル人材を育成するためにスタンフォード大学と交流したり、半導体人材育成に特化したり、熊本保健大学と連携して医療従事者を育成したりと、わざわざ市外に出なくても、水俣高校でそれが完結すればいいわけで、我々行政としてはそれを作っていく必要があります。それを早い段階から教えていく必要があり、進路を決める段階で言われても困るということにならないようにしなければなりません。

そういう道筋を示して、こどもたちがそれに向かって頑張れるようにしてあげる必要があります。

山田委員 ICTの活用により主体的な学びを促すという言葉がありますが、これは先生方にもプレッシャーがかかる言葉かと思いますので、今後4年間の計画に記載するかどうかは検討が必要かと思います。ICTの活用はいいのですが、それを主体的な学びにつなげるというのは、どうなのかと思います。何度も言いますがICTよりも体験の方が、主体的な学びにつながると思います。

高岡市長 今回頂いた御意見をもとに、教育委員会及び市長部局の事務局で検討し、課題解決のための事業の実施に結び付けられたらと思います。今後とも引き続き、皆様の御理解、御協力のほど、よろしくお願いします。

それでは時間がまいりましたので、これをもちまして、第16回水俣市総合教育会議を閉会といたします。事務局から事務連絡をお願いします。

大川 教育課より、1点、報告させていただきます。本年6月に国において、教育職員の給与等に関する特別措置法の一部を改正する法律が可決されました。これは、学校における働き方改革の加速化等に関する一部改正ですが、教育委員会として、教員の業務量と健康等を確保するための業務量管理、健康確保措置実施計画を策定し、その実施状況の公表が義務付けられました。計画の内容及び実施状況を総合教育会議に報告することも義務付けられております。この計画は本年度中に策定することとされており、策定後、次回の総合教育会議で報告させていただきます。

3 閉会 (総務課行政管理室 宮本)

本日の皆様の御意見をもとに、教育大綱案を作成し、再度、委員の皆様から御意見をいただきたいと考えております。次回会議の開催については未定ですが、来年3月頃の開催を予定しております。開催に当たっては事前に委員の皆様に通知させていただきます。本日は長時間にわたり、活発な御意見をいただき、ありがとうございました。お疲れ様でした。

